

6/1 (日)

発達障害の子どもの見方と対応の仕方



言語聴覚学専攻
青木 俊仁

多動、パニック、癇癢などの発達障害を持つ子どもによくある「状況にそぐわない行動」にどのように対処すればよいかわからないことがあると思います。それはこれらの行動がなぜ起きるのがわかりにくいからだと思います。実はこれらの行動は、誰しもがやっている行動とほとんど変わらないものです。こういった行動を「自分たちもやっていることなんだ」と理解できれば、発達障害の子どもの気になる行動への対処もしやすくなると思います。そのような行動の見方とその対応の仕方についてお話します。



6/15 (日)

おもちゃで発達支援

一おもちゃが育てる発達障害児のことばと認知一



言語聴覚学専攻
稲田 勤

私は医学部附属病院の発達外来で25年間発達障害のお子さん方に関わっています。お子さんによっては訓練への興味がわきにくいことも見受けられます。そのため20年ほど前から、大学で習った「障害児のためのおもちゃ遊び」を訓練に取り入れだしました。その結果、お子さん方の集中力、見る力、聞く力、目と手を協調させる力の向上のめまぐるしさを感じています。今回は市販のおもちゃで発達障害のお子さん方がどのような遊びを自身で展開していくのかについてお話します。

6/22 (日)

運動がぶきつちよだったり苦手だったりするのはどうして？ ～単に「やる気がない」「運動が苦手」としない、 発達特性の理解と支援のあり方～



理学療法学専攻
重島 晃史

「運動が苦手」それって単にやる気がないから？練習不足だから？それは「発達性協調運動障害（DCD）」のせいかもしれません。その特性の理解はまだまだ進んでおらず、運動ができないことを根性論や練習の繰り返しだけで解決し、子どもたちの自尊心を傷つけ、運動嫌いを助長している可能性があります。

本講演ではDCDとは何かを理解し、どのような支援が必要かを考えたいと思います。

